

志望大学別出題分析と学習アドバイス

(2024年1月作成)

東京大学

国語は、文科が大問4題で、現代文2題・古文1題・漢文1題で構成されている。理科は現代文が1題となり、計3題。試験時間は文科が150分、理科が100分。

現代文では、2500～3500字程度の評論と、随筆が1題ずつ出題されることが多い。設問は、評論では解答欄13.5cm×2行(60～70字目安)の記述が3問出題され、これに100～120字の記述1問と、漢字の書き取り3問が加わる。指示語に関わる設問や本文全体の趣旨を問う設問が多く出題される。

京都大学

国語は、大問3題で、現代文2題・古文1題で構成されている。試験時間は文系が120分、理系が90分。文理では現代文・古文の問題が異なる。

現代文では、2000～3000字程度の評論や随筆・小説が出題されることが多い。設問は、大問ごとに傍線部の内容説明・理由説明の記述問題が4～5問出題され、それぞれ縦14cmの解答欄が3～4行(約60～100字)のものが多い。

北海道大学

国語は、大問4題で、現代文2題・古文1題・漢文1題で構成されている。試験時間は120分。

現代文では、2500～4000字程度の比較的長めの評論が出題されることが多い。設問は、すべて記述式で、理由説明や傍線部説明問題が出題されるが、最後に問題文全体の論旨(趣旨)を踏まえた70～120字程度の内容説明問題が出題されることが多い。

東北大学

国語は、大問4題で、現代文2題・古文1題・漢文1題で構成されている。試験時間は2021年より120分から150分に変更された。

現代文では、2000～4000字程度の評論と、小説もしくは随筆のどちらかが出題されることが多い。設問はすべて記述式で、漢字問題も出題される。傍線部の内容説明・理由説明を25～90字程度で記述させる問題が多い。

一橋大学

国語は、大問3題で、現代文2題と古文・文語文1題で構成されている。試験時間は100分。

現代文では、2500～4000字程度の評論(古風な文体の文章が多い)が問題文とされることが多い。設問は、すべて記述式で、漢字や語彙などの知識問題も出題される。30～100字程度の内容説明・理由説明問題が多い。大問三では200字以内の要約問題が出題される。

名古屋大学

国語は、医学部・理学部・農学部を除き大問3題で、現代文・古文・漢文1題ずつで構成されている。試験時間は105分(医・理・農学部は45分)。

現代文では、4500～5000字を超える評論が問題文とされることが多い。設問は、60～100字程度の記述問題のほか、選択式の内容説明問題や漢字問題なども出題される。記述問題は問題文を要約する力も求められる。

大阪大学

国語は、文学部では大問4題で、現代文2題・古文1題・漢文1題で構成されている。試験時間は120分。それ以外の文系学部では漢文の出題がなく、試験時間は90分。

現代文では、2000～3000字程度の評論が出題され、文学部では大問1題が長めの小説か随筆が出題される。設問は、傍線部の内容説明・理由説明の記述問題や要約問題が出題され、それぞれ縦17.5cmに横3行ほどの解答用紙が用意される。また漢字の書き取りが4～5問出題されたり、空欄補充問題が出題されたりすることがある。

広島大学

国語は、大問3題で、試験時間は120分。法学部や医学部では現代文が3題、文学部や教育学部では現代文・古文・漢文が各1題出題される。

現代文では、2500～4000字程度の評論が1題出題され、法学部や医学部ではこれに小説や随筆が加わる。設問は、傍線部の内容説明・理由説明を記述させる問題が中心だが、漢字や語彙などの知識問題も出題される。

九州大学

国語は、大問2～4題出題され(学部によって異なる)、うち現代文が1～2題。試験時間は120分(一部80分の学部もある)。

現代文では、2500～4000字程度の評論や随筆が出題されることが多い。設問は、傍線部の内容説明・理由説明を記述させる問題が出題され、それぞれ縦17.0cmに横3～4行ほどの解答用紙が用意される。穴埋め問題や漢字問題が出題されることもある。